

令和6年度第2回住吉区区政会議グループディスカッション

大阪公立大学生さんからの主なご意見**A グループ 「テーマ:様々な世代の方々が参加しやすいこれからの地域活動について」**

- ・地域の核となるリーダー的な人物たちは必要だが、少子高齢化に伴い、町会への加入率は下がっていく一方だと思う。これは仕方のないことで、対処は難しい。町会のような堅いイメージの組織ではなく、世代や家庭状況に関係なく誰でも気軽に入れて、人数制限もない新しいコミュニティの結成が必要では。
- ・大学のボランティアセンターや教員を通してなら、ボランティア活動、または授業の一環として、地域の取組に積極的に協力する学生は多いと思う。双方に明確なメリットがあることがあることが伝われば、動いてくれる若い世代の人もいるのでは。
- ・成人後、地元に戻ってきやすい制度づくり(地元での就職や子育てを応援してくれる制度づくり)
- ・親が地域活動を頑張っている姿、楽しんでいる姿を子どもに見せておくのが良い。
- ・柔軟なコミュニティづくり、気持ちの良い挨拶が飛び交うまちづくり

B グループ 「テーマ:多様な団体と連携したイベントの開催とその効果的な広報について」

- ・地域イベントに大学生がボランティアとして関わって、成功を収めているケースはある。まちづくりに興味のある大学生を巻き込むのが良いと思う。中高生等に学校・学年単位で協力してもらうのも良いのでは。
- ・ホームページの作成、SNSの活用について、目的、ターゲットを事前に明確にしておくべき。
- ・学生がお店に入ったリイベントに参加したりすれば、SNS等を通じてその情報が広がりつながりができる。
- ・紙媒体についても、目を引き、読みやすいデザインと設置場所、配る枚数について勉強する必要がある。
- ・プレゼント企画(まちがいさがし、クイズ)、写真コンテスト等表彰企画、区民参加型の企画(コラムの寄稿等)
- ・イベントや災害、新しい制度など、重要なことを伝える広報媒体の場合、掲載されているQRコードを読み取ると、さらに詳しい情報を得ることができるようにする。(動画が再生されるなど。)

C グループ 「テーマ:見守りや子育てがしやすいコミュニティづくりについて」

- ・子どもの段階から、日常的に地域とつながりをもてるような取組を実施する。特に1回限りのイベントではなく、普段から地域と触れ合えるような環境づくりを行う。
- ・学校が、放課後に近隣の方々と協力してクラブ活動をおこなう。
- ・地域の子どもが使えるような自習室を開放する。皆で子育てをする。
- ・困ったときに相談できるような、つながりを広く作っておく。